

デジタル絵本を使った「読み聞かせ」に関する保育士アンケート調査

久保浦 凜奈* 保田 昌秀**

要約

絵本の「読み聞かせ」は、朝の集まり、昼食前、子どもが希望した時、自由保育中、帰りの集まりなど一日に数回行われる保育園・幼稚園での重要な活動である。「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の 2017 年改訂により、幼児教育の方向性として、小学校以降で必要とされる「個別の知識や技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の育成の方針が示され、「読み聞かせ」の重要性が増している。一方で、デジタル絵本への関心が iPad の発売を契機として集められている。先行研究として、親子間の「読み聞かせ」についての紙の絵本とデジタル絵本の比較の研究報告はあるが、保育園でのデジタル絵本の活用についての報告が少ない。そこで、本研究では、保育園等で頻繁に行われている「読み聞かせ」に「デジタル絵本」を活用した場合、最適な「読み聞かせ」はどのような方法になるかを探るために、保育士へアンケート調査を行った。

デジタル絵本を実際に視聴した後に、アンケート調査を行った結果、「園児の様子をみて、抑揚や読み方を変えられないので、紙の絵本の方が良い（意見分布 59%）」、「デジタル絵本であっても、保育士が肉声で語った方が良い（47%）」、「ページをめくるタイミングに、工夫が必要と感じた（35%）」が主な回答となった。また、「読み聞かせ」の効果として知られている 5 項目のうち、「デジタル絵本の読み聞かせでは、コミュニケーションとしての役割が劣る（71%）」との意見が多く、デジタル絵本を使った場合でも、読み聞かせは保育士が肉声で行うのがよいとの結論が得られた。これらのことから、デジタル絵本は園で行われる一部の読み聞かせで活用し、文字入りのデジタル絵本を大型モニターに映し出し、GBM や効果音を活かしながら保育士が肉声で読み聞かせを行い、保育士のタイミングで改ページを行うのが最適な方法と結論付けられた。保育園では今すぐの導入には抵抗があるものの、デジタル絵本には肯定的であり、保育士の負担軽減にもつながるとの意見もあった。

キーワード：紙の絵本、絵本投稿サイト、読み手の選択、ページめくりのタイミング、BGM と効果音の活用、コミュニケーションの低下

1. はじめに

絵本の「読み聞かせ」は、保育園・幼稚園・こども園での日々の保育において実施される重要な活動である。朝の集まり（サークルタイム）、昼食前、子どもが希望した時、自由保育中、帰りの集まりなど、一日に複数回行われ、園児の発達に大きな影響を与えている（猪原・上田・塩谷 2017）。また、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が 2017 年に改訂され、幼児教育の方向性として、小学校以降で必要とされる「個別の知識や技能の基礎」「思考力、

* 宮崎国際大学教育学部学部生

** 宮崎国際大学教育学部

判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等の育成」の方針が示された。幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府／文部科学省／厚生労働省）の「言葉」では、「言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」のねらいが記され、「読み聞かせ」の重要性が増している。このような背景のもと、2012 年頃から読み聞かせへのデジタル絵本の活用が親子間の読み聞かせで広まっている（Chiong et al, 2012）。そのために、保育園等での読み聞かせでのデジタル絵本の活用に関心が払われ始めてきている。

2. 目的

デジタル絵本の特徴を表 1 に示す。園でのデジタル絵本の読み聞かせでは、大型モニターの利用が便利であり、同時に複数の園児を相手することができる。しかし、操作は大人が行うので、子どもが読みたい時に見ることができないデメリットがある。タブレットを使えば、個別の園児ごとに読み聞かせを行うことができる。デジタル絵本の絵には文字入りと、紙芝居のように文字が書かれていない絵本がある。音声は合成音と声優によるものがあり、保育士の声を録音または肉声で読むことができる。複数の読み手による絵本や BGM や効果音が付いた絵本もある。デジタル絵本は、図書館・出版社・web サイト等にアクセスして、オンラインで容易に安価で入手することができる。絵本投稿サイト（「絵本ひろば」など）では、無料公開されている。

表 1. デジタル絵本の特徴

全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型モニターを通して複数の園児と共有することができる。 ・ タブレットを通して園児が個別に利用することができる。 ・ 大人が操作をするので、子どもが読みたい時に見ることができない。 ・ 視聴時間が 2 分から 8 分となっている。 ・ オンラインで利用でき、安価であり、無料のものがある。
画像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵に文章が書かれているものと、紙芝居のように文章がないものがある。 ・ ページめくりが、自動で行うものが多く、めくる動作がない。
音声	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声付きのデジタル絵本では、肉声による読み聞かせが不要である。 ・ 読み手が一人の場合と、複数の読み手が掛け合いの場合がある。 ・ BGM や効果音があるものがある。

2010 年の iPad の発売に端を発し、デジタル絵本のコンテンツが簡単に視聴できるようになった。デジタル絵本を使った読み聞かせに関する最初の論文は、2012 年に米国クーニー・センターのレポート（Chiong et al, 2012）で発表されている。この論文では親子間の読み聞かせに対するデジタル絵本の影響を扱っている。日本においても、デジタル絵本についての検討が 2013 年から始まった。佐藤らは、親子での読み聞かせについて紙の絵本とデジタル絵本の比較を検討している（佐藤、佐藤 2013）。それによると、紙の絵本では親主導の読み聞かせになる傾向があり、タブレットを使ったデジタル絵本の読み聞かせは、子どもが操作をする傾向がみられることが報告されている。また、今福らが行った 3 歳から 6 歳までの幼児とその養育者 103 組に対する親子での読み聞かせについてのアンケートでは、紙絵本の読み聞かせ頻度の高い幼児は、集中力が強く言語・社会性が広く発達しており、デジタル絵本は映像の記憶が残りやすいと報告している（今福、五藤 2022）。

一方、保育園等での読み聞かせは、経験豊富な保育士によって、多くの園児に対して集団で行い、

一日の回数も多い。そのため、親子での読み聞かせとは異なった最適なデジタル絵本による「読み聞かせ」が考えられる。そこで、本論文では、保育士へのアンケート調査によって、園での読み聞かせにデジタル絵本を活用した場合、どのような方法が最適かについて検討することを目的とした。

3. アンケート調査

令和6年9月12日、清水保育園（宮崎県西都市、園児85人、教職員22人）を訪問して、保育士を対象の「デジタル絵本を使った「読み聞かせ」についてのアンケート」を実施した。調査方法は、最初に、「絵本ひろば」で公開されているデジタル絵本「おやすみでんしゃ おふとんゆき、文：ひびちゃん、絵：しおりともえ、読み手：中道美穂子」を視聴して頂き、その後に、アンケート調査を実施する方法とした。

4. 結果と考察

アンケートの結果、17人の保育士から回答があった。各選択肢の回答数の回答者数17に対する割合（%）を求め、この値を意見分布とした。その値を表2に示す。複数回答であるために、意見分布の総計が100%を超えている場合がある。意見分布が高い回答に注目して解析を行った。下記に質問1～8の集計結果を示す。

$$\text{意見分布（\%）} = \frac{\text{各選択肢の回答数}}{\text{回答者数}} \times 100$$

表2. デジタル絵本を使った「読み聞かせ」についてのアンケートの質問・選択肢と回答の集計結果

保育園で複数回行われる「読み聞かせ」の一部に、「デジタル絵本」を活用した場合、園の運営にどのような影響が出るのかを探っていきたくと考えています。アンケートにご協力ください。

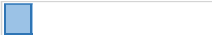
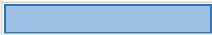










質問と選択肢		回答数（意見分布/ %）	回答総数
質問1	今までにデジタル絵本を視聴した経験がありますか？		
回答	・ はい	 2 (12%)	17
	・ いいえ	 15 (88%)	
質問2	今回、デジタル絵本を視聴して、どのように感じましたか？（複数回答可）		
回答	・ デジタル絵本でも、絵本の良さが失われていない	 5 (29%)	27
	・ デジタル絵本には、テレビや動画にはない良さがある	 6 (35%)	
	・ 他のデジタル絵本も視聴してみたいと思った	 6 (35%)	
	・ 園児の様子をみて、声の抑揚や読み方を変えられないので、紙の絵本の方が良い	 10 (59%)	
質問3	もし、園での読み聞かせにデジタル絵本を使うとした場合で、お答えください。まず、音声についての印象をお答えください（複数回答可）。		
回答	・ 読み手の声優の話し方がよかった	 8 (47%)	27
	・ 読み手がコンピュータの合成音声でも構わない	 1 (6%)	
	・ 読み手は、本園の保育士が吹き込む方が良い	 4 (24%)	
	・ デジタル絵本でも、保育士が肉声で語った方が良い	 8 (47%)	
	・ 一人の読み手よりも、複数の読み手の掛け合いがよい	 1 (6%)	
	・ 効果音やBGMがあった方がよい	 5 (29%)	

表 2 (つづき)

質問 4 次に、「画像」についての印象をお答えください（複数回答可）。			
回答	・ 想像したよりも、絵本らしいと思った		5 (29%)
	・ 大型テレビを使えば、園児全体が見やすいと思った		8 (47%)
	・ 絵には、絵本の文字が書かれている方が良い		2 (12%)
	・ ページをめくるタイミングに、工夫が必要と感じた		6 (35%)
質問 5 読み聞かせの 5 つ効果の中で、紙の絵本に比べて、デジタル絵本の読み聞かせが劣ると思われる効果を選んで下さい（複数回答可）。			
回答	・ 園児の想像力を育む		5 (29%)
	・ 園児の言葉の理解・語彙力の増加		4 (24%)
	・ 園児の集中力を高める		5 (29%)
	・ 園児が絵本の内容に応じた学習ができる		5 (29%)
	・ 園児とのコミュニケーションとしての役割		12 (71%)
質問 6 デジタル絵本の活用について、全般的なことについてお答えください。（複数回答可）			
回答	・ デジタル絵本を園での読み聞かせに、今後活用したい		1 (6%)
	・ 本園では当分の間、デジタル絵本の活用は考えていない		5 (29%)
	・ 園児の年齢に応じたデジタル絵本の活用が必要である		7 (41%)
	・ 読み聞かせの場面を考えたデジタル絵本の活用が必要		3 (18%)
	・ 紙の絵本とは内容が違っているので、紙の絵本との両方を利用することになると感じた		3 (18%)
質問 7 もし、デジタル絵本を使うことになった場合の業務への影響についてお尋ねします。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）			
回答	・ 大型テレビや通信環境の整備などのコストがかかる		6 (35%)
	・ デジタル絵本の導入は、保育士の新たな負担増になる		0 (0%)
	・ デジタル絵本の導入は、保育士の負担軽減につながる		2 (12%)
	・ 今後、幼児期から ICT に触れる機会が増えると思われるので、デジタル絵本の導入は時代の流れにそっている		6 (35%)
質問 8 質問 7 以外に、園で読み聞かせにデジタル絵本を使うことで、問題となることを教えてください。			
回答の	(自由記述)		
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル絵本の視覚や声の質には満足しているが、保育者の活用方法次第で子どもたちにうまく伝わるかが重要だと考えている。 ・ デジタル絵本では視力への影響や子どもの反応を見た声の抑揚の変化がない、手指の動作や紙の絵本の温かみが欠けるため、紙の絵本の方が良いと感じている。 ・ デジタル絵本は絵本と保育士との対話が減り、子どもと保育士のコミュニケーションが不足する可能性があり、親子のコミュニケーションにも懸念がある。 		

質問 1: デジタル絵本をいままでに視聴した経験がある人は 2 人、経験のない人は 15 人となり、デジタル絵本を視聴した経験のある保育士が少なく、保育園への普及には時間を要することが予想される。

質問 2: デジタル絵本の視聴後の感想としては、「園児の様子をみて、声の抑揚や読み方を変えられないので、紙の絵本の方が良い」との意見が多くあった（意見分布 59%）。その他に、「デジタル絵本でも絵本の良さがそこなわれていないと感じた」「他のデジタル絵本も視聴してみたいと思った」「デジタル絵本には、テレビや動画にはない良さがあると思った」のデジタル絵本に肯定的な意見が 29%～35%あった。

質問 3: 音声についての質問に対しては、「視聴した絵本の声優の読み方が良かった」との意見がある一方で、「デジタル絵本であっても、保育士が肉声で語った方が良い」の回答が多くあった (47%)。

質問 4: 画像についての質問に対しては、「大型テレビを活用すれば、園児全体が見やすいと思った」の回答が最も多くあった (47%)。「ページをめくるタイミングに、工夫が必要と感じた」の回答が 35%あり、園の読み聞かせでは、園児とのアイコンタクトなどを通じて園児と保育士の関係を重視していることがわかる。

質問 5: 先行研究 (絵本の読み聞かせの効果やメリット 2021、https://sekayo.jp/yomikikase_merit/) で、読み聞かせの効果は、①園児の想像力を育む、②園児の言葉の理解・語彙力の増加、③園児の集中力を高める、④園児が絵本の内容に応じた学習ができる、⑤コミュニケーションとしての役割の 5 項目に整理されている。質問 5「5 つの効果の中で、紙の絵本に比べて、デジタル絵本の読み聞かせが劣ると思われる効果を選んで下さい」への回答では、「コミュニケーションとしての役割が劣る」との意見が最も多く (71%)、デジタル絵本では、保育士と園児とのコミュニケーションに懸念があることが示された。「園児の言葉の理解・語彙力の増加」の効果の観点からは、絵本の文字が書かれている方が良いという意見もあった。

質問 6: デジタル絵本の活用についての全般的な質問では、「園児の年齢に応じたデジタル絵本の活用を考える必要がある」の回答が 41%、「本園では当分の間、デジタル絵本の活用は考えていない」との回答が 29%であり、保育園へのデジタル絵本の運用には工夫が必要で、今すぐの導入には消極的であった。

質問 7: デジタル絵本を使うことになった場合の、業務への影響についての質問では、「デジタル絵本の導入には、大型テレビや通信環境の整備などのコストがかかる」、「今後、幼児期から ICT に触れる機会が増えると思われるので、デジタル絵本の導入は時代の流れにそっている」との意見がそれぞれ 35%となった。この質問には 5 人の無回答者がいた。

質問 8: 園で読み聞かせにデジタル絵本を使うことで、問題となることを教えてください (自由記述) については、具体的な回答の公開は、個人情報の保護に抵触することから、表 2 に ChatGPT-3.5 によって 3 つの箇条書きに要約したものを示す。要約には、現時点では保育士がデジタル絵本に種々の懸念を持っていることが示された。

今回のアンケート調査では、デジタル絵本を視聴した経験者が少なかったが、質問 2~3 から今回の視聴でデジタル絵本を使った読み聞かせに 3~5 割の保育士が関心を持ったことが分かる。質問 2~6 の意見をまとめると、「デジタル絵本の読み聞かせでは、園児の様子を見ながら声の抑揚や読み方を変えられず、園児とのコミュニケーションが取れない (質問 2、5)、保育士が肉声で語った方が良い (質問 3)、大型テレビを使えば園児全体が見やすいが、自分のタイミングでページをめくることができない (質問 4)、園児の年齢に応じた活用が必要である (質問 6)」となる。

デジタル絵本の機械音声と肉声の比較の研究が坂田らによって報告されている (坂田、川口、杉浦 2015)。そこでは、映像の切り替えタイミングや読み聞かせの速度などにおいて、子どものペースに合わせた情報提示が大切であると報告されている。質問 7 では、デジタル絵本の導入には、大型テレビや通信環境の整備などのコストがかかるとの消極的な意見と、今後、幼児期から ICT に触れる機会が増えると思われるので、デジタル絵本の導入は時代の流れにそっているとの意見が拮抗していて、

将来の導入に含みを持たせている。また、保育士の負担軽減にもつながるとの意見もあった。しかし、無回答が5人いたことから、将来の具体的な展望をもてない保育者もいた。質問8の自由記述の回答には、デジタル絵本の活用は、視力の低下、家庭での親子のコミュニケーションの低下への影響などの懸念意見があった。

保育園でのデジタル絵本を活用した読み聞かせの最適な方法をまとめると、デジタル絵本の内容や対象年齢を考えて、一部の読み聞かせで活用し、文字入りのデジタル絵本を大型モニターに映し出し、GBMや効果音を活かしながら保育士が肉声で読み聞かせを行い、保育士のタイミングで改ページを行うのが最適な方法と考えられる（図1）。

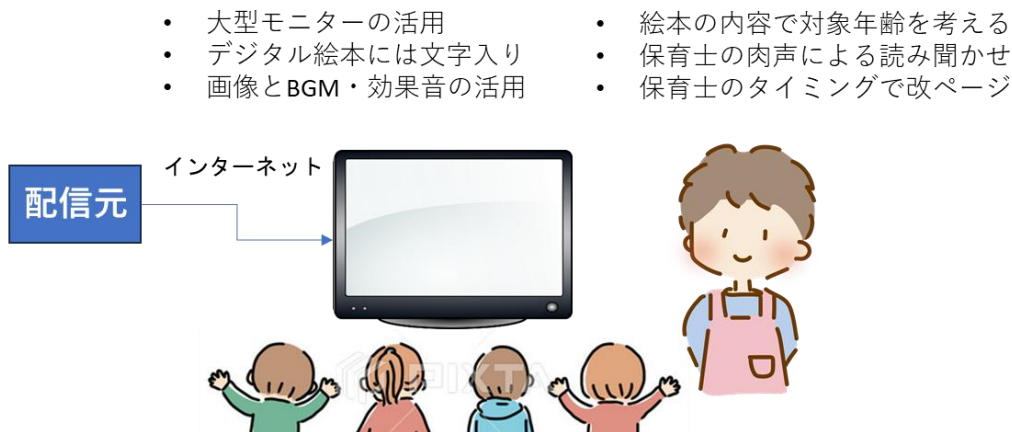


図1. 保育園での最適なデジタル絵本を使った「読み聞かせ」

5. まとめ

保育士の仕事は多岐にわたり、子どもへの直接的な関わり、発達のサポートに加えて、書類の作成、会議への参加、保育に関するリスト管理などの業務を行っている。このような業務の負担軽減のために、ハローミライの保育士（厚生労働省、<https://www.mhlw.go.jp/hoiku-hellomirai/kaizen/>）では、1) 保育士をサポートする「保育補助者」を採用する。2) ICT（情報通信技術）の活用によって事務作業の効率化が提案されている。

今回のアンケートでは、デジタル絵本の今すぐの保育園への導入には抵抗があるものの、将来の導入には前向きであった。小学校まで普及しているICT化は、近い将来、保育園・幼稚園にも波及することが考えられ、デジタル絵本を使った読み聞かせで事務作業のICT化とは別のデジタル絵本の活用のようなICT化が保育園等で実現されることが想定される。

参考文献

1. Chiong, C., Ree, J. and Takeuchi, L, (2012), Comparing parent-child co-reading on print, basic, and enhanced e-book platforms, The Joan Ganz Cooney Center at sesame workshop, NY
2. 今福理博、五藤沙耶（2022）幼児における紙絵本・デジタル絵本経験と言語・社会性発達、武蔵野大学、人間学研究論集 11, pp. 23-32
3. 坂田陽子・川口沙也加・杉浦悠子（2015）幼児の年齢に応じたデジタルデバイスの使用方法の検討ーデジタルデバイス絵本をもとに一、デジタル教科書研究、2、pp. 19-31
4. 佐藤朝美、佐藤桃子（2013）紙絵本との比較によるデジタル絵本の読み聞かせの特徴の分析、日

本教育工学会論文誌 37, pp. 49-52

5. 猪原敬介・上田紋佳・塩谷京子（2017）乳幼児期から児童期における読み聞かせ頻度の変化と保護者の持つ読み聞かせの効果への期待 -小学校に児童を通わせる保護者を対象とした実態調査-, くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要, 50, 1-10.

本調査に関する研究倫理審査申請書（申請番号 R6-10）を宮崎国際大学研究倫理委員会に提出し、令和 6 年 8 月 25 日に承認を受けている。